

特別展示「ひょうげた器 —三条せともの屋出土茶陶—」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

京都市考古資料館では、平成24年度 前期特別展示として、「ひょうげた器 —三条せともの屋出土茶陶—」を開催します。

桃山時代は中世から近世への道が開かれた歴史の画期です。政治や文化などに大きな変化が起りましたが、その一つに「茶の湯」の隆盛をあげることができるよう、^{せんりのきゆう}千利休・^{ふるたおりべ}古田織部らの著名な茶人が活躍したのも、この時代です。

今回の特別展示では、京都市有形文化財(美術工芸品〔考古資料〕)に指定された、京都市中京区三条通柳馬場東入中之町出土の江戸時代初期(17世紀はじめ頃)の多量の陶磁器を中心に陳列します。これらは、桃山時代から江戸時代初期の茶事・茶会で使用される陶磁器「茶陶」であることが大きな特徴です。

中之町東側に位置する弁慶石町・下白山町・福長町からも、同じ時期の多量の茶陶が出土しており、三条通沿いの東西わずか200m程度の範囲に類似する遺跡が集中していることが明らかになってきました。これらの茶陶には、生産地の窯で焼成する際に用いられた窯道具が付着したままのものが多く、多くは使用された痕跡が認められないことから、実際に使用されたものではなく、商品として店舗で保管・陳列されたものであったと



黒織部・織部黒 沓茶碗



織部 向付

中之町出土桃山茶陶(京都市指定文化財)

考えられます。

江戸時代初期に描かれた「京都図屏風」や「寛永平安町古図」には、中之町の位置に「せと物や町」の記載があり、この推測を裏付けます。

中之町から出土した茶陶は、美

濃・瀬戸(岐阜県・愛知県)、唐津・高取(佐賀県・福岡県)、信楽(滋賀県)、備前(岡山県)など日本各地から京都にもたらされたものがほとんどで、京都産はごく少量です。なかでも美濃・瀬戸

産が圧倒的多数を占め、志野・鼠志野・織部黒・青織部・黒織部など様々な意匠の製品があります。また、器形には茶碗・皿・鉢・向付・建水・水指・蓋・茶入・徳利・花生・灯明具などがあります。

これらの茶陶には、産地を問わず、非対称にひずんだ器「ひょうげた器」が多数含まれており、ひずんだ形と自由闊達な絵付けが大きな特徴となっています。出土した茶陶から、桃山時代から江戸時代初期の「奔放な」文化の有り様をうかがうことができるでしょう。

桃山文化を代表する数々の茶陶を心ゆくまでご覧ください。そして、考古学が明らかにしてきた桃山時代の「茶の湯」に思いをはせてください。
(山本雅和)



関連遺跡地図（室町時代～江戸時代前期）



志野織部・志野 皿・向付



唐津 沓茶碗・向付



青織部 向付



高取 水指・花生

中之町出土桃山茶陶（京都市指定文化財）